



Title	変形性膝関節症症例における日常生活活動および生活の質と動的姿勢制御との関連性の検討 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	佐橋, 健人
Citation	北海道大学. 博士(保健科学) 甲第14671号
Issue Date	2021-09-24
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/82968">http://hdl.handle.net/2115/82968</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Kento_Sabashi_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（保健科学） 氏名：佐橋 健人

審査委員	主査 教授	浅賀 忠義
	副査 教授	遠山 晴一
	副査 教授	生駒 一憲（北海道大学病院リハビリテーション科）

学位論文題名

変形性膝関節症症例における日常生活活動および生活の質と動的姿勢制御との関連性の検討

当審査は2021年7月30日実施の公開発表にて行われた。（出席者13名）

変形性膝関節症は高齢者における一般的な整形外科的疾患である。変形性膝関節症は様々な機能障害を呈し、結果として日常生活活動の制限や生活の質の低下を引き起こす。そのため、変形性膝関節症の日常生活活動および生活の質に影響する機能障害の特定、およびそれらに対する治療方法の発展が国際的に期待されている。変形性膝関節症の機能障害の一つに姿勢制御があり、静的および動的姿勢制御能力の低下が明らかにされている。これまで変形性膝関節症における静的な姿勢制御と日常生活活動および生活の質との関連が調査されているものの、関連性は極めて限定的であった。日常生活では歩行や階段昇降のような動的姿勢制御を必要とする動作が多く、変形性膝関節症の日常生活活動や生活の質とより関連する可能性があった。したがって、本論文では変形性膝関節症の動的姿勢制御と日常生活活動および生活の質との関連性を検討することが課題であった。

本論文では、床反力計から算出される足圧中心を用いて両脚立位から片脚立位へ移行中の動的姿勢制御を評価し、変形性膝関節症における日常生活活動および生活の質との関連を検討した。その結果、変形性膝関節症の動的姿勢制御能力の低下は、日常生活活動の制限および生活の質の低下と有意に相関していた。さらに、重回帰分析の結果、変形性膝関節症の日常生活活動の制限は、年齢と疼痛のほかに動的姿勢制御の低下が有意な予測変数であった。また生活の質の低下は、変形性膝関節症の重症度と疼痛のほかに動的姿勢制御の低下が有意な予測変数であった。動的姿勢制御が、変形性膝関節症の日常生活活動や生活の質に関連する重要な要因であることを示した。臨床現場では、変形性膝関節症の転倒リスク評価を目的として片脚立位保持時間の測定が広く行われているが、日常生活活動や生活の質の観点から両脚立位から片脚立位へ移行中の姿勢制御にも着目する重要性を本論文は示唆した。

以上、本論文は、変形性膝関節症の日常生活活動や生活の質に、動的姿勢制御が関連することを明らかにし、今後の変形性膝関節症の評価・治療に重要な知見を提供するものである。これを

要するに、著者は、変形性膝関節症の日常生活活動の制限や生活の質の低下を引き起こす要因について新知見を得たものであり、変形性膝関節症に対するリハビリテーションの発展に貢献するところ大なるものがある。

よって著者は、北海道大学博士（保健科学）の学位を授与される資格あるものと認める。